

きよせボランティア・市民活動センター 登録団体アンケート

集計結果（案）

1 調査方法

- 令和7年度きよせボランティア・市民活動センター登録している69団体にアンケートを送付。
- 令和7年8月5日（火）～8月20日（水）までを回答期間とし、期限内に受領したものを対象とした。
- 回答方法はアンケート用紙を返信用封筒で送付または持参、FAX、専用回答フォームのQRコードから回答のいずれか。

2 回答数

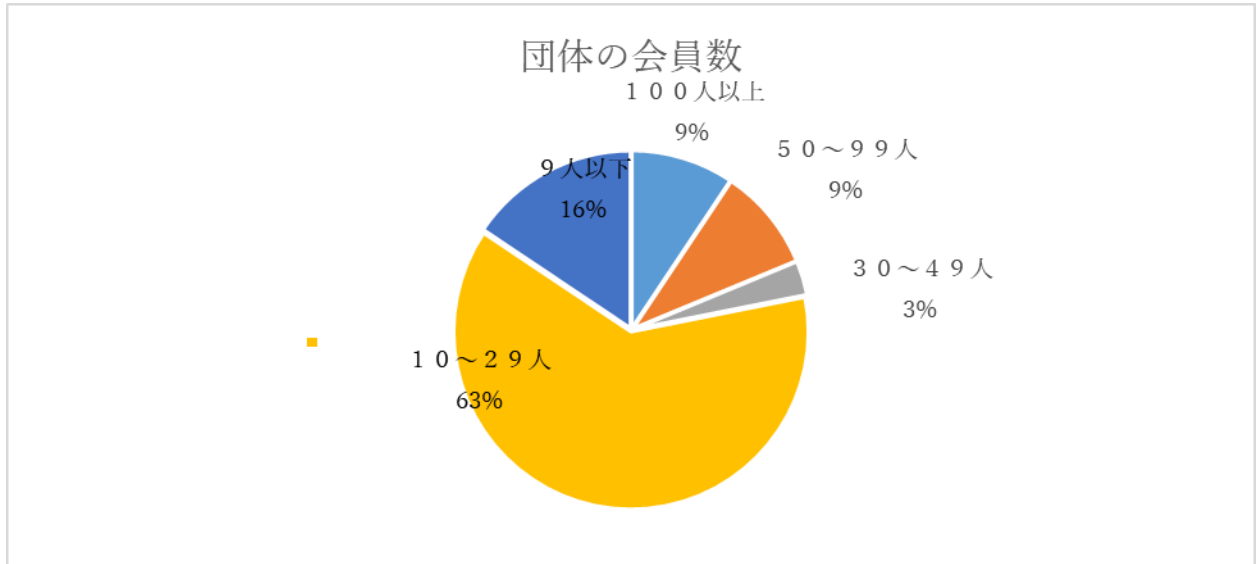
- 33件（回答率47.82%）

3 調査結果

1. 団体の基本的な内容

問1 団体メンバーの構成を教えてください。

(1) メンバー（会員）数



【コメント】

◆10～29人が全体の63%になった。これは30人程度の市民活動が多かったことが伺える。

◆9人以下が全体の16%になったのは後継者不足により会の拡大と運営が難しいなかで、活動は続けているということが推測できる。

(2) メンバーの年代を多い順で教えてください。

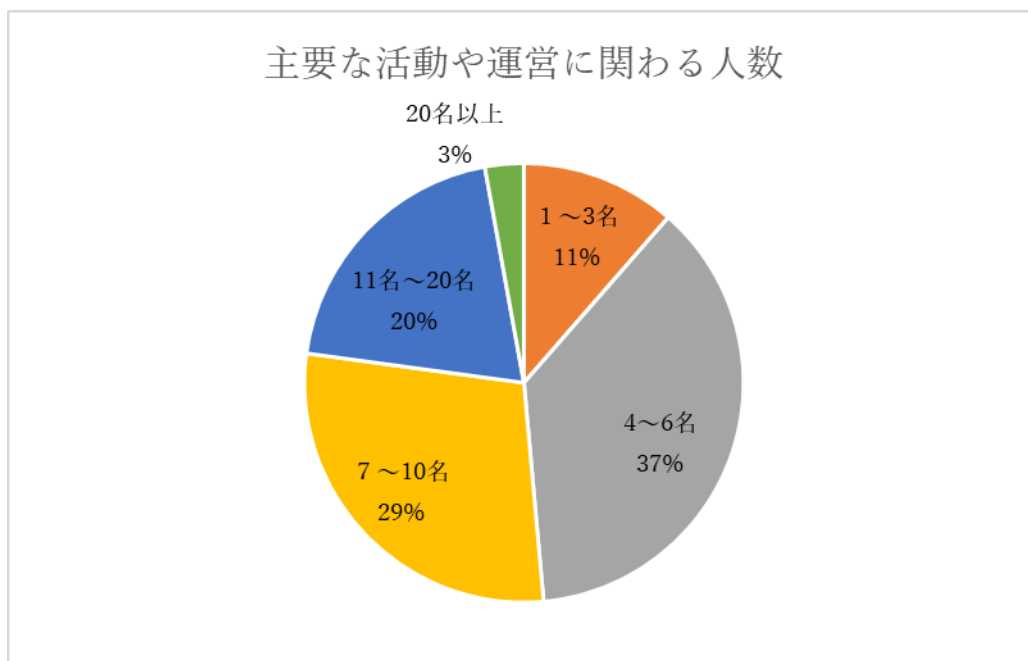
- ・80代が一番多いと回答した団体が5団体
- ・70代が一番多いと回答した団体が17団体
- ・60代が一番多いと回答した団体が7団体
- ・50代が一番多いと回答した団体が2団体
- ・未回答2団体

【コメント】

◆70代が一番多いと回答した団体が17団体と全体の半数以上であることから、多くの団体で高齢化していることが伺える。

◆一番多い世代に40代以下の回答が無いのは、現役世代で市民活動、ボランティア活動に参加できていないことが伺える。

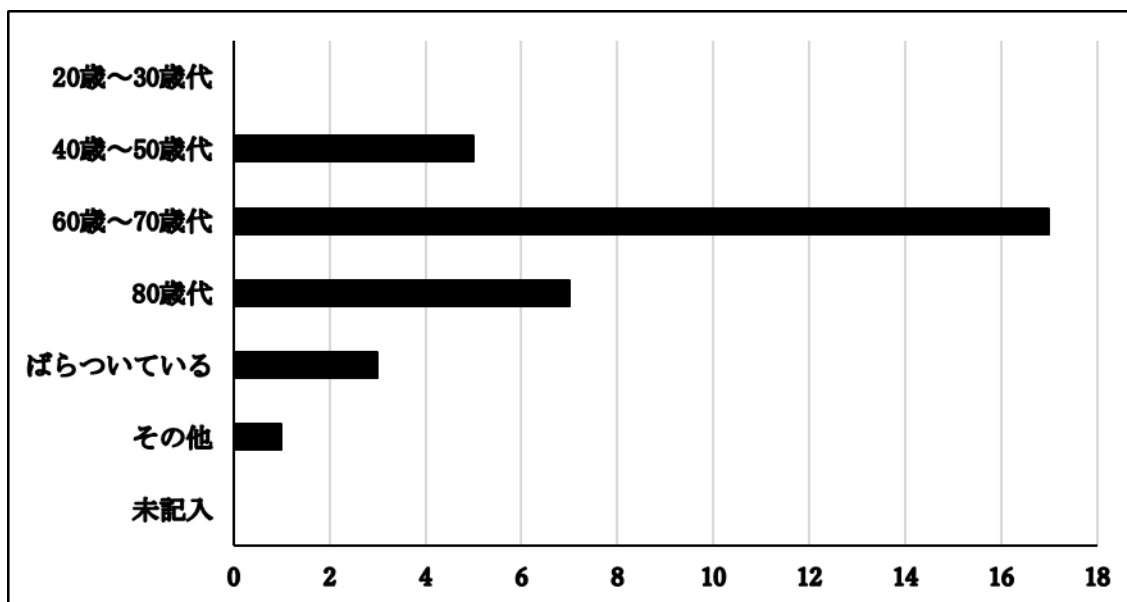
(3) そのうち会の主要な活動や運営に関わる人数は何人くらいですか。(いずれかに○)



【コメント】

◆4～6名が一番多い回答となった。(1)メンバー数の回答より団体の会員数が10人～29人が全体の63%だったことを考えると、主要なメンバーは少数で運営している団体がほとんどであると推測できる。

(4) 団体の活動を担っているのは、主にどのような年齢層が中心ですか。(いずれかに○)



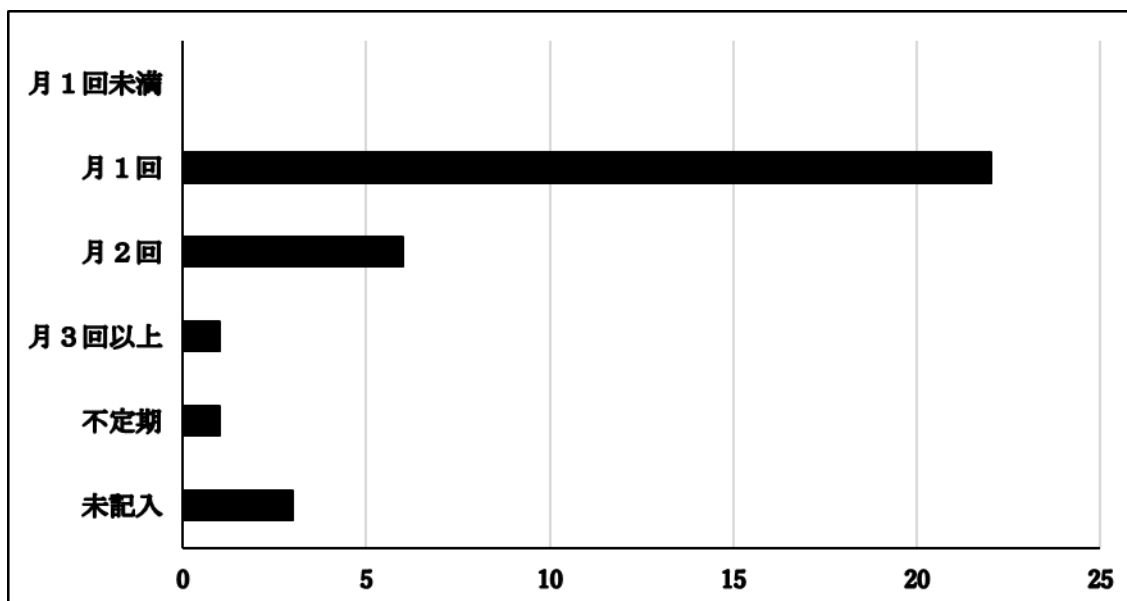
その他

- 70代～80歳代

【コメント】

◆団体の活動はセカンドキャリアとしている方が多いことが伺える。

問2 メンバー間の定例会の開催頻度について教えてください。



その他の場合

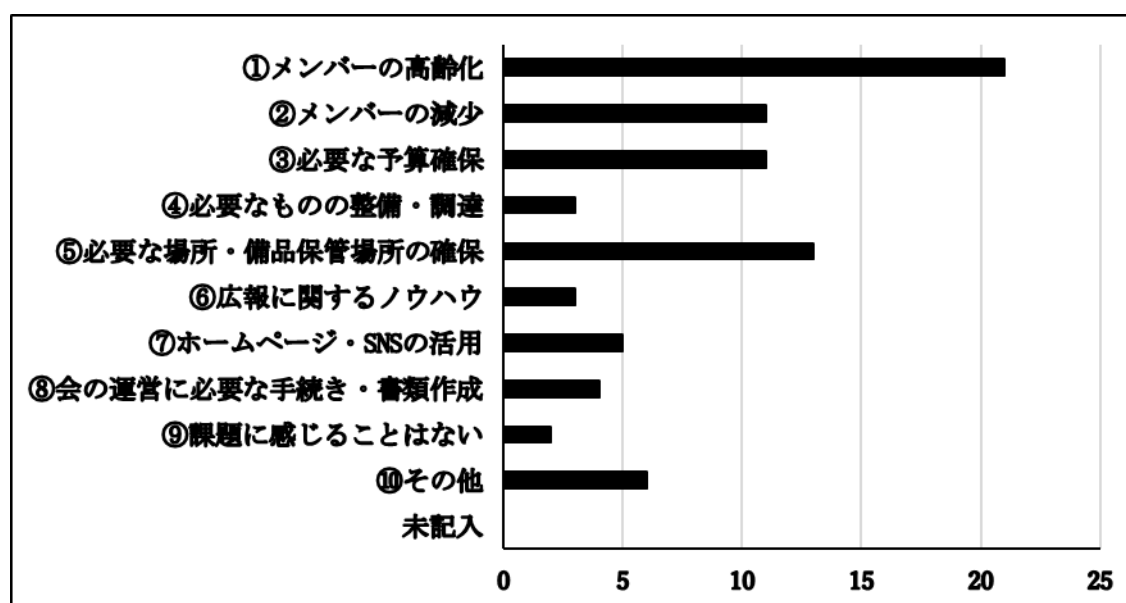
- 8月は夏休みとし、代わりに参加団体グループ代表者による運営委員会を行う。
- 週1回月4回。定例会は活動終了後その都度話し合いをしている。
- 月例山行を年に8～10回くらい

【コメント】

◆「月1回」との回答が一番多くなったのは、きよせボランティア・市民活動センターの会議室の数が限られているためだと推測できる。併せてほとんどの団体はきよせボランティア・市民活動センター以外では活動していないことも推測できる。

2. 運営に関する現状と課題

問3 活動の上で課題と感じていることはありますか。(いずれかに○ 複数回答可
具体的な課題があればカッコ内をお願いします。)



1.メンバーの高齢化

- いずれ訪れる高齢化による活動の機能しなくなる時の準備が出来ていないのが不安。

- チーム員は 70 代中心であり、今後の継続活動を図るにはボランティアだけでは難しいこと。
- 高齢化については登山内容、会員のニーズの変化など、それに対応が必要になってきており、運営も難しさを感じている。また、夏季の酷暑（以前は 8 月のみ野外活動中止していましたが、（7 月～9 月も検討か）で、野外活動を施設内での活動（勉強会や交流の場）に変えていく必要。

2. メンバーの減少

- ボランティアメンバー不足なので、ご自身の都合で欠席されると人手不足になる。また、大学生は試験期間、実習期間は欠席することが多く、人手不足となる。
- 会の運営を決める幹事メンバーがいない。

3. 必要な予算確保

- 事業収入の安定確保（自立）及び寄付金、助成金の確保。
- 予算配分補助金を活用しているが、遊具や教材、イベント費用など、補助金の対象外のものがあり毎年予算確保が必要。
- 利用者、チーム員の利用料負担で会の運営資金を賄う状況であり、近い将来に限界となる。

4. 必要なものの整備・調達

- 機材として PC が不可欠なので、定期的な買い替え等が必要。

5. 必要な場所・備品保管場所の確保

- 関連資料、印刷用紙、備品等。
- 相談があった時に、ボランティアがペットを一時的に預かるために必要な資材（ケージやトイレ）を保管する場所。
- 子ども食堂の会場が民家を時間でお借りしているので、必要な物品の多くを当日搬入するようになり、備品の保管場所を確保したい。
- 今後の拠点、利用方法等が未確定。
- 駅の近くに調理室がない。場所の抽選に当たるか心配な時がある。駐輪所・駐車場がない所がある。

6. 広報に関するノウハウ。

- 市報毎月 1 日号及び市ホームページへの記載している。活動場所は空家の利用。令和 6 年度から市介護予防活動団体育成事業補助金を受給している。

7. ホームページ・SNS の活用

- 高齢化が多く、IT のスキルが乏しい

8. 会の運営に必要な手続き・書類作成

- 運営委員会、及び活動に必要な印刷物
- 聞き取りの方が楽（視覚障害があるため）

9. その他

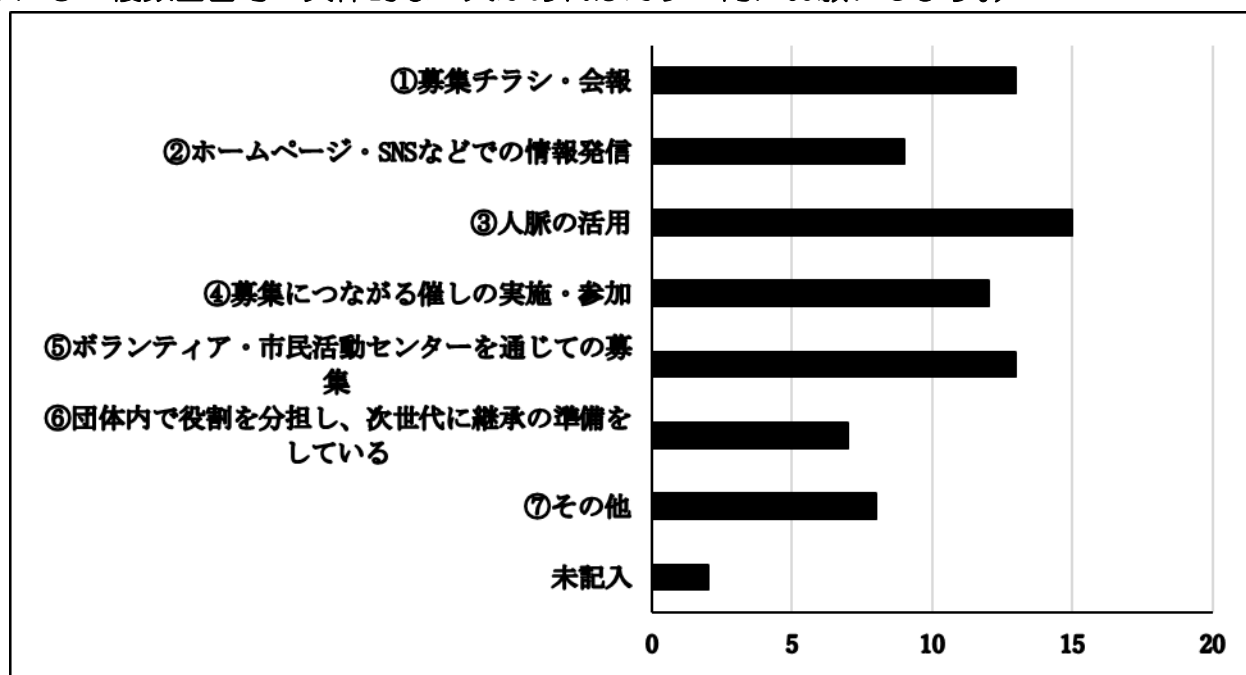
- 従来の活動センターに準じた活動拠点、及び準備等の倉庫、連絡用のメールBOX など
- 発足して間もないため、基盤作りについて
- 駅の近くでの場所を安定・安心して確保。
- 助成金を 3～10 万の助け合い運動の成金を申請している。

【コメント】

◆「メンバーの高齢化」が一番の課題だと感じている団体が一番多かった。後継者となる新しいメンバーがいらないことも高齢化の原因だと推測される。

◆「必要な場所・備品保管場所」の確保が二番目に多かったが、きよせボランティア・市民活動センターの会議室を利用しているので、場所よりも備品保管場所の方の意見が多いと推測される。

問4 メンバーの拡大、後継者育成に関して工夫していることはありますか（いずれかに○ 複数回答可 具体的な工夫があればカッコ内をお願いします。）



1. 募集チラシ・会報

- 市掲示板の活用、学校へポスター等を掲示依頼
- ふまねっと運動については高齢支援課に要望し市報に案内を掲載してもらっているが頻度は少ない。
- 新しい人を活動の中で、発掘している。
- 年2回発行の会報(4月、9月)
- 有償ボランティアの定着

2. ホームページ・SNSなどでの情報発信

- ホームページに最新情報を都度掲載

3. 人脈の活用

- 当会参加団体の協力援助
- 2026年7月に設立15周年コンサートを開催予定
- 他地域での生徒やメンバーの友人が自然と入会する場合がある。

4. 募集につながる催しの実施・参加

- ラジオ体操指導者の育成、NPO ラジオ体操連盟の研修会等に参加
- 日本語教室は日本語ボランティアになる資格として、会が行う（市との共催）日本語ボランティア養成講座を受講する必要がある。このことによって毎年新しい日本語ボランティアが誕生し、引いては新しい清瀬国際交流会会員を確保することに繋がっている。会が30年以上活動できているのは、この講座の存在が大きいと思え

る。

- 無料体験、無料教室の開催

5. ボランティア・市民活動センターを通じて募集

- ボランティア相談会やボラカフェに参加したところ、大学生の参加者が増えた。

6. 団体内での役割を分担し、次代に継承の準備をしている

- 各々の参加団体で解決すること
- インストラクターの確保

7. その他

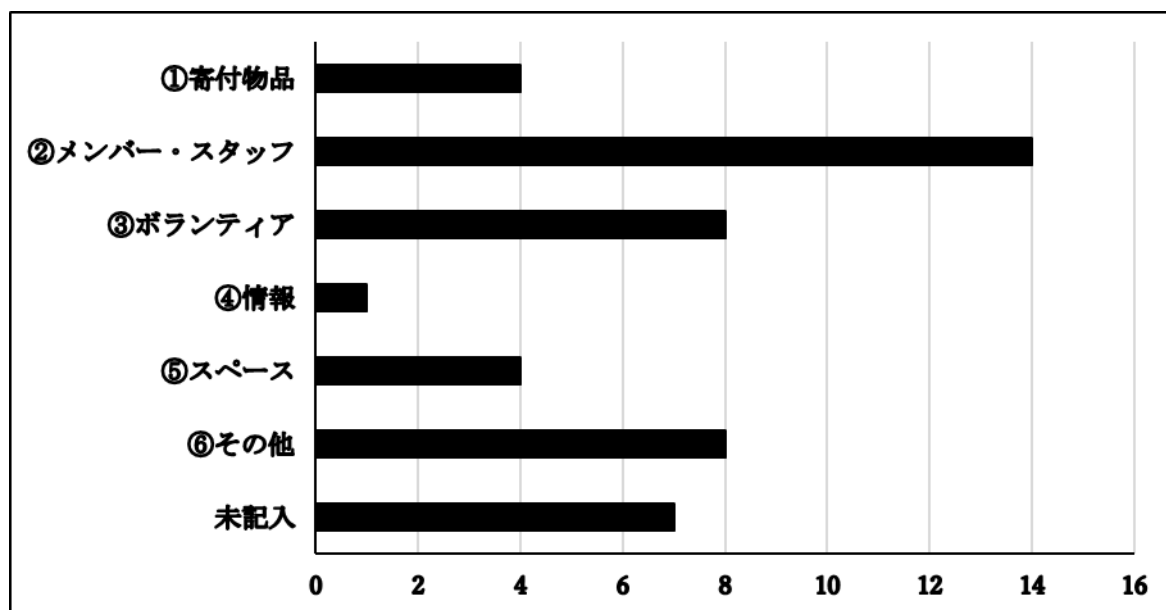
- まだメンバー拡大、後継者の育成に取り組んでいない
- メンバーの増減は常にあるものなので気にしていない。増えすぎる方がよくない。
- 会員の拡大は会員の知り合い、友人などに声がけする程度です。

【コメント】

◆「人脈の活用」が一番多い回答となったが、メンバー構成をみると若い世代が増えていないことから、メンバー拡大のために人脈を活用していると推測される。

◆「募集チラシ・会報」「ボランティア・市民活動センターを通じて募集」が二番目に多かったが、これが後継者になりうる年齢層の世代に届いているか判断が難しい。

問5 地域の方から広く募りたいものはありますか。(いずれかに○ 複数回答可
具体的な考えがあればカッコ内をお願いします。)



1. 寄付物品

- お楽しみ会では、子ども達へ子どもが喜ぶ品物(未使用の不用品)、キャラクターグッズの文房具や日用品などをラッピングしてプレゼントして喜ばれている。知人に声掛けて、未使用品や不用品などを集めているので、募集したい。

2. メンバー・スタッフ

- 常時メンバーやスタッフを募集している。
- 声を出すこと、PC を使った活動をするためのスキルを学ぶことが必要なので、なかなか難しい。過去に講座を受けて参加に至らなかった人が、時間的余裕が出来て参加して下さるとうれしいがその実績はない。
- インストラクター、アシスタントの確保。

- 子ども食堂連絡会では3年前からハロウィン祭りを開催しており、竹丘地域では、お菓子を配るホストハウスを募集しているので、ホストハウスを増やして地域の祭りを盛り上げたい。

- 幹事会など常に参加できるメンバー

3. ボランティア

- 有償ボランティアの定着
- 行き場を失った犬や猫を自宅で一時的に預かる事ができるボランティアが増えてほしい。
- 楽器演奏や手品、バルーンアートなど、地域で特技がある方に子ども食堂に来ていただき、ぜひ披露してほしい。
- きよせ映画サロン開催時の会場設置、椅子の設置、撤去。

4. 情報

※コメント無し

5. スペース

- 活動拠点となる場所、備品倉庫、作業場、連絡用メールBOX

6. その他

- 各種まつり参加で禁煙カルタづくり（うまい棒のプレゼントあり）を行っている。また今年7月から小学校へ禁煙図書を贈る活動を開始した。会費と寄付だけでは十分な活動ができないが、今年初めてきよせの環境・川まつりで禁煙図書を贈る募金箱を設置した。できる範囲で地道に活動していきたいと思っている。
- 観光資源の協力者
- 子ども食堂は食事提供だけでなく、子どもの居場所として、多世代が交流できる場である。地域の方が子ども達に関わってくれるような取り組みをしていきたい。
- 毎週の活動中心であり、地域への働きかけが難しい。

【コメント】

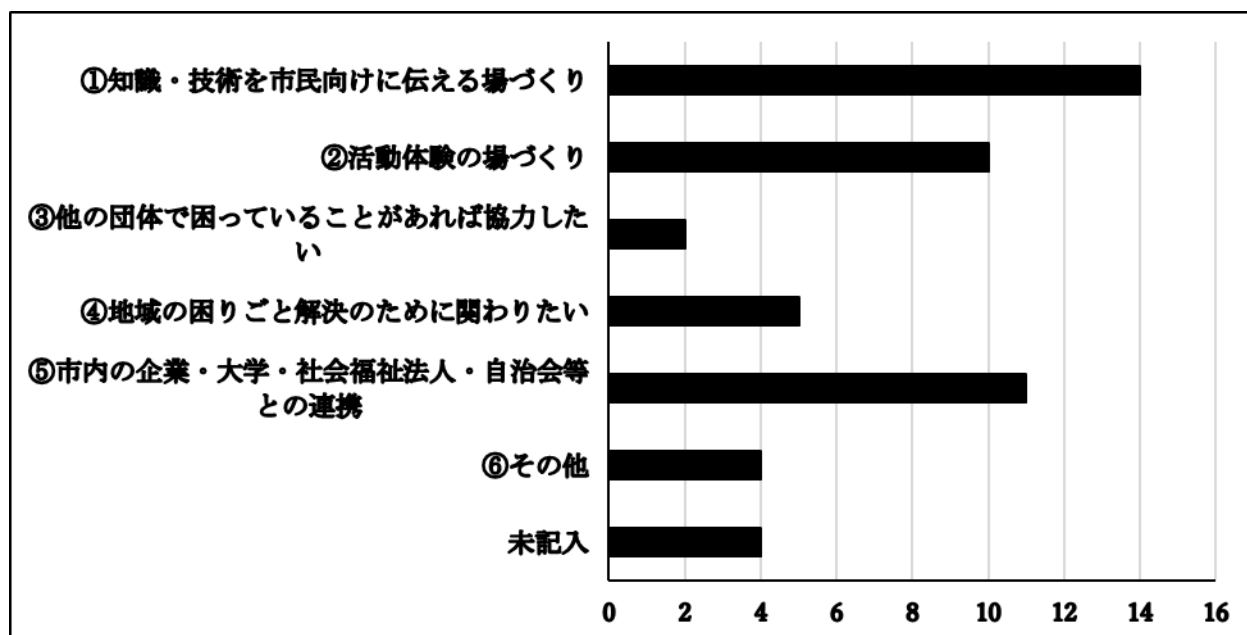
◆「メンバー・スタッフ」の回答が一番多かった。会員の減少で自分たちがやりたい運営ができていないことが推測される。そのため、会の運営を優先することになり、後継者の育成に手が回せていないことが推測される。

◆「ボランティア」の回答が二番目に多かった。コメントを見てもイベントなどの際だけでも人手が欲しいという印象である。

◆市民活動、ボランティア活動をするにしてもマンパワーが足りないという印象である。

3. 地域との関わり

問6 普段行っている取り組みのほか、どんなことであれば地域貢献ができると思いますか。（いずれかに○ 複数回答可 カッコ内に内容をお願いします。）



1. 知識・技術を市民向けに伝える場づくり

- 代表の私自身が3回にわたり講座を開催し、1回目、2回目は定員を超える応募があった。我々の活動の発端は市民の活動を応援することであったので、応援したい市民がいれば細々とでも応援をしていきたいと思う。
- 啓蒙活動、理解を深めて欲しい
- 川の清掃作業

2. 活動体験の場づくり

- 絵手紙体験教室を開く
- 句会、篆刻（てんこく）教室
- きよせ映画サロンへの参加、来場者との交流

3. 他の団体で困っていることがあれば協力したい

- 当団体の得意な分野の要求であれば

4. 地域の困りごと解決のために関わりたい

- 団体、ボランティア個人の自立意識（人、物、場所、資金など）。社協、自治体の可能な範囲での支援（物、場所、資金）。
- ペット問題の話し合いやイベントや講座は、地域課題としてボランティア・市民活動センターで行われており、そこに当会のメンバーが協力させていただいているので継続していく。

5. 市内の企業・大学・社会福祉法人・自治会等との連携

- 現在、市内小学校の校庭の樹木のCO2吸収量の測定を学校の協力で進めている活動への協力。
- 多文化共生・国際交流事業として、外国人（日本語教室学習者）による自国の文化の紹介などを行って、幅広い層の地域日本人との交流を促進したい。
- 清瀬の魅力発掘にご協力いただきたい。

- 子ども達に様々な体験や活動の場を提供していきたい。そのために地域の人や企業、大学等と連携していきたい。
- 社事大の学生との交流
- ふれあい祭へやきそばの出店として参加
- 講演・講座の開催

6. その他

- 支援対象の視覚障害者団体とは連携している。過去には、他団体の発表会での録音に協力したことがある。
- すでに出来ることを行っている
- 登録消費者団体連絡会への加入

【コメント】

◆「知識・技術を市民向けに伝える場づくり」が一番多い回答となった。団体として活動し、そこでの知識や経験を活かせる場が足りないと感じている団体が多いことが推測される。

◆「市内の企業・大学・社会福祉法人・自治会等との連携」が二番目に多くなった。後継者になりうる人材として、働き世代や若い世代等との繋がり場を求めていると伺える。

問7 過去1年間程度で、他の団体（活動団体、企業、商店、農家、学校、自治会など）と一緒に取り組みを行ったり、協力して実施した取り組みはありますか。あれば、取り組みの内容を教えてください。（自由記述）

- 盆踊りの踊り手の育成：ラジオ体操会（中里）。小学校への出前ラジオ体操（清小・6小）。小学校新任教諭を対象に正しいラジオ体操の講習会の実施
- 現在、三小、七小、清明小の校庭樹木の CO2 吸収量の測定と表示を行っており、他校での要望があれば協力する。
- 社会福祉法人とボランティア養成講座開催
- 清瀬第七小学校の円卓会議（松山 DX）にはなるべく参加するようにしている。毎年学校のまつりには「市民の健康を守る会」として参加し、展示や禁煙カルタづくりを行っている。今年はきよせの環境・川まつりにも「市民の健康を守る会」として参加した。
- 小学校で点字授業及び夏のボランティア体験で点字教室。
- 清瀬市総合防災訓練に参加し、多言語防災パンフレットなどを紹介した。日本語ボランティア養成講座と学習会を、担当部署の生涯学習課と連携して市と共催で行った。松山地域市民センター主催の「未来カレッジ」に協力し、日本語教室学習者3名を派遣し、小中学生が外国の文化にふれる手伝いを行った。
- 清瀬視覚障害者グループあかりのメンバーからの音源を、定期的刊行 CD に組み込む。清瀬社協の刊行物の音訳。ボラ活だよりは、定期刊行 CD に入れる（CD・封筒は会の負担）。社協だよりは、CD と封筒は社協負担。
- 市外企業（沿線まるごと株式会社）と地域活性化についてのイベント開催
- 清瀬市から、高齢者元気回復事業「ひまわり元気塾」を受託。
- ボランティア・市民活動センターで開催されたイベント（人とペットの幸せフェア）への協力。そこで他団体やボランティアさんたちと協力することができた。飼い主の死去で残された猫の保護の協力の際は、ボランティア・市民活動センターから預

かりボランティアを紹介してもらい、その後、フェアで譲渡に繋げることができた。

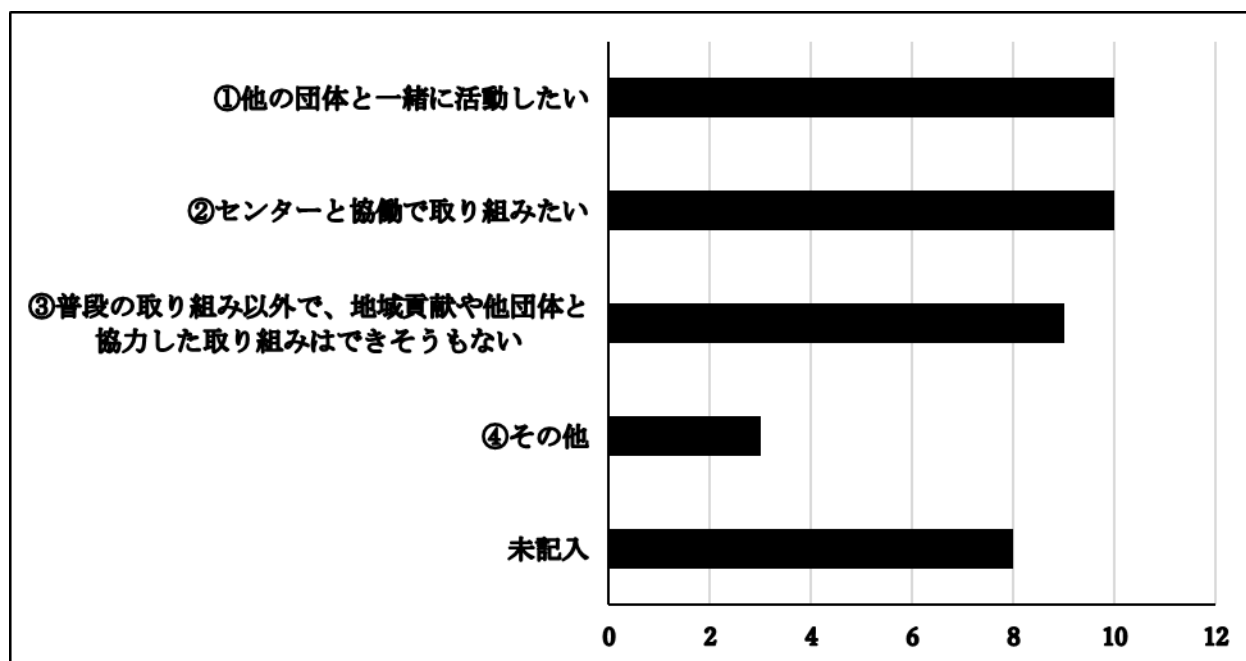
- 子ども食堂を全国的にサポートする団体【むすびえ】からの紹介で、企業の子ども食堂応援プログラムに応募して、企業と連携した。
- 音訳講習に参加、説明。
- 小学校、保育園の授業に協力。川の清掃やゴミが環境に与える影響について生物の採集による生態系や多様性を知る。水質調査による川の環境を知る。自然川づくりと工事内容について、都の管理事務所と話し合っている。
- 是非民生委員の方に協力を得て食事を作るのに困難な人又一步、家から出向く等に役立てていただいたら、この活動の意味が一層深まると思いますので民生委員の方にはお願いしたいと思う。
- 「きよせコミュニティカレッジ」への参加。夏の体験ボランティアへの参加。小学校での福祉教育への参加。
- 登録消費者団体連絡会としての活動
- 「東京の明日を創る協会」において、生活会議競技協議会の活動。
「たま市民活動ネットワーク」において、5市団体と活動内容の交流（小平市、西東京市、東村山市、東久留米市、清瀬市）
清瀬郷土博物館より講師を招き、清瀬駅 100 周年の講演会を開催（2024.7.14）
東京都下水道局、清瀬水道処理センターの見学（2024.10.11）
- 社会福祉協議会が募集して子ども達にマジックを教え、幼稚園の子ども達に披露する。

【コメント】

◆他の団体として小学校との取り組みが多いことが伺える。これはボランティア・市民活動センター主催の「夏の体験ボランティア」が1つの要因であると考えられる。

◆社会福祉協議会やきよせボランティア・市民活動センターとの取り組みも多いが。企業との取り組みは少なく、横の繋がりは広がるが、後継者になりうる世代との取り組みがなされていないのが現状である。

問8 他の団体（活動団体、企業、商店、農家、学校、自治会など）と一緒に活動や協力を得ていきたいことはありますか。（いずれかに○ 複数回答可 具体的な協力内容等の考えがあれば、カッコ内に内容をお願いします。）



1. 他の団体と一緒に活動したい

- 小学校で喫煙防止の教育を行いたい。これまで清瀬第六小学校と清瀬第七小学校で一度ずつ喫煙防止教室を、市役所・学校・当会の3者の共催で実施した。もっと他の学校とも一緒に行いたいと思っている。
- 外国の文化（習慣や料理など）の紹介や外国人との交流を希望する企画があれば、可能な範囲で協力したい。
- 視覚障害者団体との連携
- 農家の方のご協力で、子ども達に、作物の収穫体験
- 学校と川を使った環境教育・安全教育

2. センターと協働で取り組みたい

- 現在実施している「夏のボランティア活動」への協力
- ボランティア養成
- 企業や商店の子ども食堂応援プログラムなどあれば連携したい。
- 川の環境保全に関わる活動全般、人員確保

3. 普段の取り組み以外で、地域貢献や他団体と協力した取り組みはできそうもない

- 会員の減少などから活動が下火になっているため、何か打開策はないかと思っている。
- 自分達の生活を大切にしつつ、無理のない範囲で活動を続けたい。

4. その他

- 「夏のボランティア活動」を学校だけでなく、地域の公園緑地等でのCO2測定に協力可能
- 具体的イベントで、可能な範囲で他団体等との相互協力。

【コメント】

◆「他の団体と一緒に活動したい」「センターと協働で取り組みたい」が一番多い回答となった。今の活動からさらに新しい取り組みを行いたい、今の自分たちだけではマ

ンパワー等で新しい取り組みができないということが推測される。

◆「普段の取り組み以外で、地域貢献や他団体と協力した取り組みはできそうもない」と回答した団体が9団体あり、回答した全体の約30%の団体がそのように感じている。コメントにもあるように、今の団体活動を継続することが困難であると感じている団体が増えていることが伺える。

問9 若い世代へ自団体の活動をアピールするためには、何が必要であると感じていますか。（自由記述）

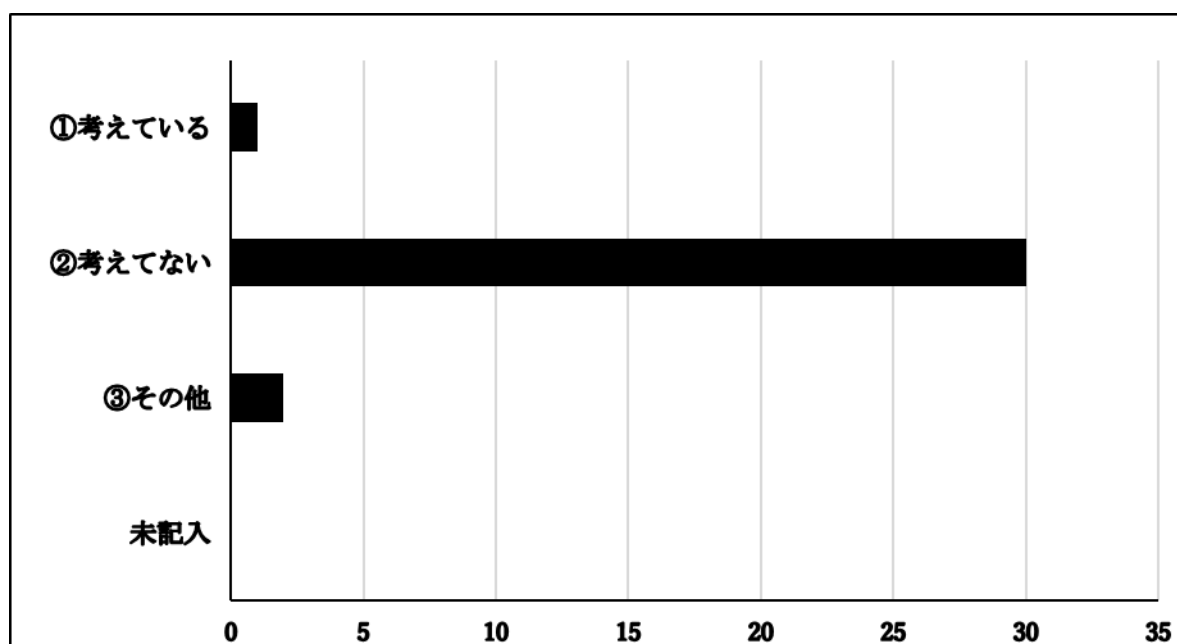
- 樹木のCO2吸収量の測定の活動は、地球温暖化防止への緑（＝樹木）の大切さを可視化する目的で実施しており、当団体に賛同する団体、他人の協力、参加を求めている。
- SNSなど活用した広報。
- 今年度、清瀬市内9つの小学校に禁煙図書を贈るので、そのことを保護者の方にも知っていただき、土曜日に図書室を開放している小学校では保護者に直接禁煙図書を手に取っていただきたい。
- 若い世代の方が仕事を休んでまでも活動したい魅力のある物を考える
- 地域活動が社会参加の一步であった時代と異なり、単発的な活動であったり、既にもっている特技を生かす活動ではないため難しい。
- 若い世代が思わず「参加してみたい」と感じるような、ワクワクする場づくり。年齢層の高い団体であっても、若い世代が不安なく踏み出せる受け入れ体制の整備。誰もが心地よく関われる環境づくり。
- ボランティアの意義の理解と重要性
- 社会貢献、社会的課題・問題の解決をできる範囲でやるのみ。
- 紹介する場所の確保。活動参加への案内
- 市政が中心となり、街の活動化の一環として【清瀬市地域交流会の開催（団体任せにしない）】

【コメント】

◆若い世代への情報発信をコメントしている団体が多かった。その情報には「参加してみたい」「魅力的である」と思える内容である必要があるというコメントが伺えた。

◆自分たちの活動を体験し、知ってもらい、興味を持ってもらう機会を提供する必要があるというコメントも多くあったことから、知る機会を創出が求められていることが伺える。

問10 貴団体のNPO法人格の取得を考えていますか。(いずれかに○ カッコ内に内容をお願いします。)



1. 考えている

- 子ども食堂だけでなく、子どもが安心して多世代と交流し、楽しめる居場所を作っていきたいと考えている。しかし法人格は未知の領域なので、講習会や法人との連携など、教えていただける場があると助かる。

2. 考えていない

- 現在、一般社団法人で活動中
- 少人数のグループなので考えられない
- 作業を増やせない

3. その他

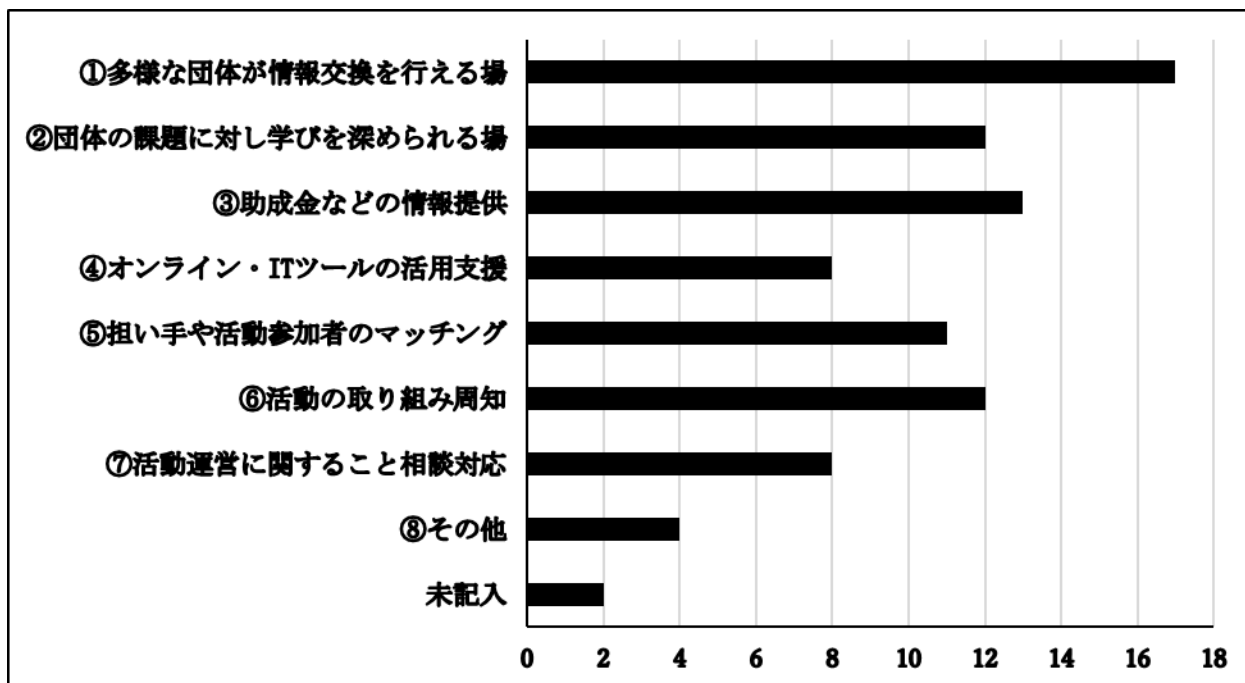
- 未定
- 組織に入っているので必要ない

【コメント】

◆ほとんどの団体がNPO法人化することを考えていない。理由としては、コメントにあるように活動の作業量をこれ以上増やせないなど、法人化のメリットより、団体活動を滞りなく行うことの方が重要だと感じていることが伺える。

4. ボランティア・市民活動センターについて

問11 きよせボランティア・市民活動センターの取り組みとして、さらに期待したいことはありますか。(いずれかに○ 複数回答可 具体的考えがあればカッコ内をお願いします。)



1. 多様な団体が情報交換を行える場

- 社会事業大学のボランティアセンターとの関係を強化して、ボランティアに関心がある学生との地域交流を進めてほしい
- 専用のボランティアセンター

2. 団体の課題に対し学びを深められる場

※コメント無し

3. 助成金など情報提供

※コメント無し

4. オンライン・ITツールの活用支援

- IT系に詳しくないので、教えてもらえたらありがたい。

5. 担い手や活動参加者のマッチング

※コメント無し

6. 活動の取り組み周知

- ボランティアフェスなど楽しい取り組み
- 活動形態の多様化はいいと思うが、社協として一本化すべき。きよせボランティア・市民活動センターが一人歩きしているように感じる。社協の主体性をもっと発揮すべき。

7. 活動運営に関する相談対応

※コメント無し

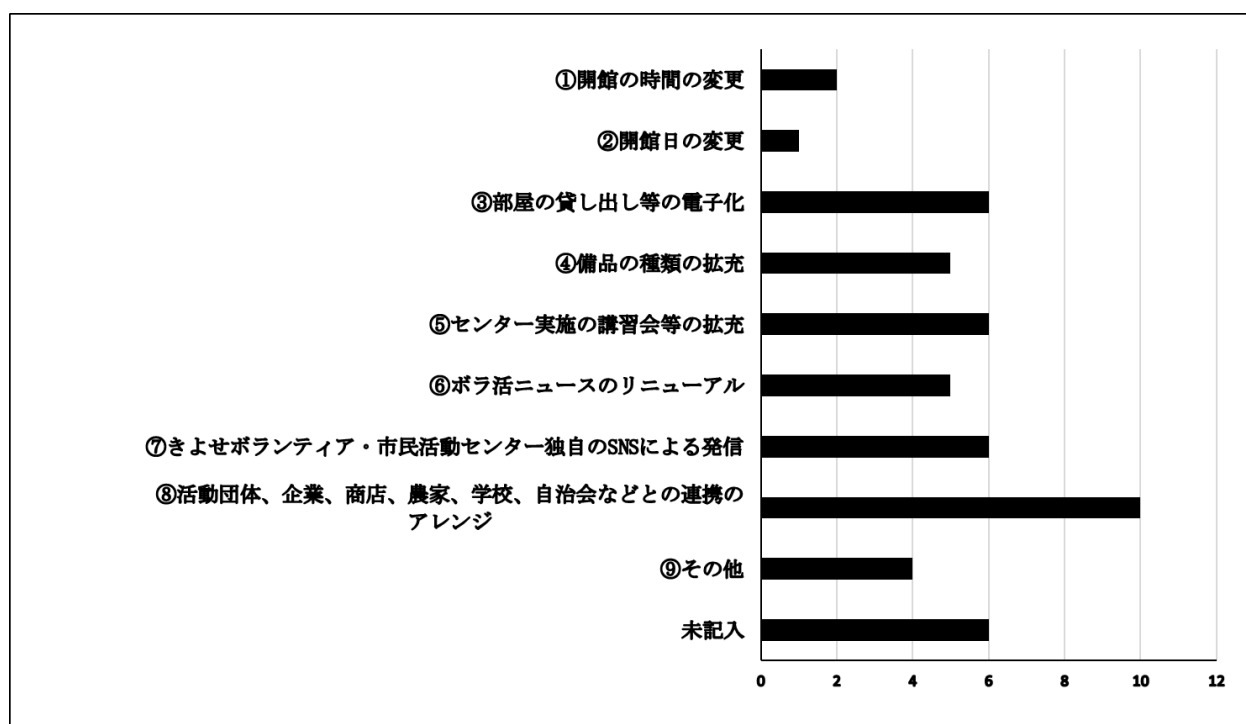
8. その他

- 活動拠点、連絡センターとしての役割
- きよせボランティア・市民活動センターの講演会（傾聴の講演会、良かったです）

【コメント】

◆「多様な団体が情報交換を行える場」が一番の回答となった。きよせボランティア・市民活動センターを核として、団体同士が交流し、一緒に活動機会が求められていると推測する。現状は交流会を年に1回やっているが、扉の閉まる会議室で各々の団体がそれぞれの団体の話し合いを行っており、日常的に横の繋がりを作れる場面は少ないと感じる。

問12 きよせボランティア・市民活動センターの運営に関して、よりよく運営するために期待することはありますか。(いずれかに○ 複数回答可 カッコ内に内容をお願いします。)



1. 開館の時間の変更

- 若い世代の活動の場として夜間開館

2. 開館日の変更

- 日曜日も開館

3. 部屋の貸し出し等の電子化

- TVAC（東京ボランティア・市民活動センター）の様に貸出可能な施設情報が確認できる

4. 備品の種類の拡充

- 連絡及び活動拠点、備品、資料の倉庫など

5. センター実施の講習会等の拡充

※コメント無し

6. ボラ活ニュースのリニューアル

- 活動団体の事業の紹介

7. きよせボランティア・市民活動センター独自の SNS による発信

※コメント無し

8. 活動団体、企業、商店、農家、学校、自治会などとの連携のアレンジ

- 各団体の活動に参加するなどアウトリーチの取り組みとニーズ把握
- 市内の企業、商店、農家、子ども食堂以外の活動団体等との連携がまだないので、連携させてもらいたい。

9. その他

- Wi-Fi の導入
- ボランティア団体の活動拠点である現在の活動センターの利用内容を継続してほしい。

【コメント】

◆「活動団体、企業、商店、農家、学校、自治会などとの連携のアレンジ」が一番の回答となった。今まで関わってこなかった団体と関わる機会を求めていることが伺える。このことから、各団体だけでは、活動の周知や広報、後継者探しが毎回同様の場所、相手に向けての発信になっており、新しい人材等への発信ができていないと推測される。

◆「部屋の貸し出しの電子化」「きよせボランティア・市民活動センター独自の SNS による発信」の回答が二番目に多い回答になった。きよせボランティア・市民活動センターの更なるDX化を望む声が上がっていることが伺える。

問13 平成30年度から清瀬市社会福祉協議会がボランティアセンターと市民活動センターを運営していますが、どのように感じているなど、ご意見・ご感想をご記入してください。（自由記述）

- ボランティアと市民活動の区分けがあいまい。公共性のある活動へ資源の配分をお願いしたい。
- スタッフの皆さんは、市民への対応もよく一生懸命やっていると思う。
- ボランティアセンターと市民活動センターの役割の違いを認識していなかったの、社協が異なる二つを担っているという意識はあまりなかった。スタッフの対応も親切で、活動の縁の下での力持ちとして大いに助かっている。
- コロナ禍の ZOOM 活用支援は助かった。
- どちらも市民に対する PR が少ない
- 平素の市民活動、ボランティア活動への支援に深く感謝申し上げます。今まで清瀬市からの報告資料等は一読しましたが、会議には全く参加していない。清瀬市で高齢者支援の活動をしている立場で、感想・意見を述べます。アンケート内容を見ると、「ボランティアセンターと市民活動センター登録団体」だけの問題ではないように思います。清瀬市の市民活動・ボランティア全般・根本的な問題・課題であると思う。清瀬社協の活動そのものの問題、課題であるように思う。したがって、施設閉鎖問題と今後の将来的な活動は切り分け、早期に決断・解決し、本来活動を継続・発展させるべきと考えます。

1. 名称・呼称について。「ボランティアセンター、市民活動センター」何故二つののか。いろいろ経過はあるようだが、団体側、運営側の問題であり、市民からすればわかりにくい。清瀬社協「ボランティアセンター」で良いと思う。

2. 清瀬市の関わりについて。清瀬社協の活動の一部である、きよせボランティア・市民活動センターの活動に、清瀬市がこれだけ丁寧に踏み込んで対応しているのはすごいことではないかと思う。半面、施設閉鎖問題があるとはいえ「何故、一課題に対しここまで市がやらなければいけないのか」という疑問もある。まだ施設閉鎖

問題が解決していないのが驚きである。社会貢献・市民活動・ボランティア活動の分野は広い。清瀬市、清瀬社協は一つの課題に踏みとどまるのではなく、高齢化、少子化、障がい者、環境、趣味・・・等の全体を見て、具体的な課題解決へ向けた支援・協力をすべきであると思う。

3. 清瀬社協の関わりについて。施設管理は清瀬市とは言え、社協の動き・考えが全く見えない。根本的には、「ほとんどは清瀬社協の問題・課題」「清瀬社協は何やっているの」と言いたい。社協がもっと前へ出ていいのでは。

施設管理に係る課題 ➡ 清瀬市

市民活動・ボランティア活動に係る課題 ➡ 社協

4. 市民団体、ボランティア団体の関わりについて。当事者の関係団体も他力本願でなく、自立を基本にすべきだと思う。「何のために、誰のために活動を行うのか」をもう一度考え直すべきではないかと思う。ボランティア活動は自らの主体性の問題であると思う。必要と思うことを自らやれることをやるというのが基本だと思う。趣旨に賛同する人が集まる具体的活動を行う。自治体等はあくまでも、相談、協力、支援を可能な範囲でやってもらう事ではないだろうと思う。

5. 活動場所について。「活動はやろうと思えばどこでもできる」と思う。活動場所がなくなるわけではない。新たな場所での活動方針・計画を早期に作り活動を開始・継続すべきと思う。チョット遠いが、駐車場、連暖房、エレベーターなどが完備されて、「市民活動・ボランティア活動の拠点」を一つの目的とした「清瀬市コミュニティプラザ」を中心に活動したらよいと思う。部屋も工夫すればまだあると思う。駅に近いアミュー等に活動場所も一定程度確保するようなので、「長期にわたり、いわゆる器（施設・場所）にこだわり議論を続けるのは市民活動・ボランティア活動に時間的なロス」ではないかと思う。私たち「一般社団法人きよせ100歳時代」（前身のNPO法人「友遊」）は、15年前に元町のNTTビルから、現在の清瀬市コミュニティプラザに活動拠点を全面移転した。当時は利用者会員・ボランティア等、年間26,000人が利用した。

結論的には、施設問題とボランティア・市民活動の有り方を切り離し、早期の決断・合意・解決を行い、本来活動を継続すべきである。ボランティア・市民活動のあり方は継続的な・永遠的な課題であると思う。

- 今の運営に満足している。地域のニーズを把握し、福祉に精通した社協による運営は最適だと思う。平成30年の社協との統合以降、地域にさらに開かれたセンターづくりという目的に合った運営になっていると感じる。

地域や福祉を大切にする職員の姿勢がこちらにも伝わってくる。ボランティアや市民活動に関する知識や地域における情報が豊富で、市職員より柔軟で相談しやすい。新たなニーズに対する当会の活動にも理解があり、課題解決のために一緒に動いてくれるので頼りになる。

当会会員の話では、市外の方から「清瀬は社協と市民ボランティアが連携して動いていてすごい」と言われたことがある。

- いつも親切に対応していただき、感謝している。助成金のご案内もいただき、助かっている。中古の不用品の食器等の配布もありがたい。ハロウィン祭りでは、竹丘地域を回って取材してくださり、感謝している。ボランティアを募集するイベントを開催してくださり、ボランティアを募集でき、とてもありがたい。

- 活動内容を周知し助かっている。
- 市民活動センターの利用に関し、安定的、計画的に利用できるよう事務を進めていただき感謝している。また、他団体の取り組み、行事についても周知されているため会員に伝えることができている。ボランティアを行っている会員にとってはボランティアセンターと同居は利便性がとても良いと思う。
- 活動センターを無料で使わせて頂けるのは定期的に会議等を開けて活動がしやすく必要な場所と思う。
- 清瀬市社会福祉協議会の運営以前と変わらず、自団体の相談窓口として運営へのアドバイスを頂き、活動先もコロナ以前と同数の拡大と新たに小学校の学童や小学校のPTAのライブラリーカフェ等にも出向いている。新たな交流に会員の協力の中で推進できている。
- 活動しやすく、市の職員より話しやすい。他のセンターと休みが違うのでありがたい。
- 平成30年以前から壊れている箇所(男子トイレのドア)が未だ修理されていない。
- 大変、熱心に事業運営していることには感謝している。又、もう少し将来的、多様性の展望に立っての運営を期待する。
- いつも気持ちよく施設を利用させていただいている。1回目の移転説明会では市の担当の方が施設利用団体の活動状況を把握しておらず「運営は社協に丸投げ」という印象であった。今回の移転を強行したら活動終了する団体もあったと思う。施設は活動にとっても重要。

【コメント】

- ◆どの団体も現状の運営体制に非常に満足していることが伺える。団体に寄り添える近さでセンターの運営を行っていることが要因であると推測される。
- ◆団体にとって「市民活動」「ボランティア活動」の違いというものはなく、自分たちがやりたいと思ったことをやっているの、そこを分けて考えたことがないというコメントが見受けられる。
- ◆センターとして、将来的な展望を見据えてほしいや市はもっとセンターのことを理解する必要があるとのコメントもある。

問14 ボランティア・市民活動の取り組みや、期待することについて、ご記入ください。(自由記述)

- 従来の活動拠点、連絡調整、及び会議室、印刷機等の利用、メールBOXの設置、人的配置を期待する。
- もっと専門性のあるコーディネーターを配置して、ボランティアの増加、活動の促進を期待したい。本アンケートを継続して行ってほしい。
- 現在のきよせボランティア・市民活動センターの存在の大きさを、閉鎖問題を契機に改めて知った。閉鎖計画を見直しして、同じ場所で活動が続けられる計画を市と市民が一緒になって考える方向に変更してほしい。新規建て替えが難しければ、耐震工事を含めたリフォーム計画にして、市民からの寄付やクラウドファンディングなどあらゆる財源確保を探って、市民活動の機運を積極的に醸成してほしい。
- ボランティアや市民活動に関心のない方でも、思わず足を運びたくなるような、魅力あふれる開かれた場となることを願っている。積極的な連携やマッチングの促進で、活動の活性化や新たな人材の発掘、そして新しい活動の創出にもつながること

を期待する。

- 私たちは、飼い主の事情で行き場を失ったペットの保護と新しい飼い主探しへの協力、また再発防止のためのイベントや啓発活動を行っている。動物だけでなく人権にも関わる問題として、ご理解とご協力をいただきたい。そして市民活動の拠点、ボランティア・市民活動センターは利便性(立地、駐輪駐車場など)においても欠かせない施設なので、今の場所での存続を強く希望する。

地域で孤立する人、法や行政の支援から漏れている人たちを支える活動が広がり、今後ますます盛んになる事を期待する。

若い世代の参加は難しいかもしれないがアプローチを続けていただきたい。

行政はボランティアや市民活動の役割を尊重し、社協や地域市民センターなど地域福祉サービスへの財政を削減しないでほしい。

各団体とボランティアが担っている多様な役割(環境保全、国際交流、子育て支援、動物保護、文化芸術、介護予防、地域交流など)を市がすべて補うのは難しいと思う。市の施策によって市民活動が停滞すれば、結果的に市にとっても大きな課題になる。停滞ではなく活性化させる仕組みを、今の活動センターを中心に考えてもらいたい。この検討会に期待する。

- 平日にボランティア交流会が開催されていたように思うが、平日仕事で参加できず、活動団体と繋がる機会がない。今年は、交流会に参加したいと思っている。働く世代は、平日は仕事だけど、休日にボランティアをしたい…という声もあり、土日にもボランティア相談会や交流会などを開催してもらいたい。ボランティアの世代がシルバー世代だけでなく、学生、若者、中高年と幅広い世代に広がることを祈っている。

- 市の職員数が削減され、業務が増え大変苦労されている事を、よく伺う。古い団体会員からは、市の職員が昔のように、川や雑木林の活動に参加されなくなったと聞くことがある。

環境に関わる団体としては、市とボランティア団体が連携して清瀬の自然を守ることと当たらなければ成らないと考えている。連携を深めるためには、市の職員と交流を深める場所・ボランティア団体が活動しやすい場所、そのような環境を造る事が大切だと考える。

現在の場所は、市の中心地にありアクセスがしやすく、高齢化した会員には大変助かっている場所だ。

他にも、周年を通して無料で会議室が使える、資材を収納する小屋を置く場所がある。当会としては、長期大規模工事として、現ボランティア・活動センターの建て替えを希望する。新しい施設は、現在の機能以外に、老人の集いの場・退職者が来やすい場所・物作りや修理ができる多目的ルーム・講演や発表など意見交換などができる交流の部屋・災害時に対応できる施設など多目的に利用できる施設にしてはどうか。

- 長期にわたって市民活動が続いて現在、高齢化が伴う問題が生じている。これは活動団体だけの問題だけでなく、清瀬市全体の問題でもある。各種市民活動が行政施策の先取り、補完の役を荷ってきていると思っている。
市民活動・ボランティアに第一歩踏み出すことは一個人として勇気がいることだが、これを乗り越える後押しの工夫が行政として必要である。

安心して多くの市民活動団体が活発に活動できるためには、市の中心部にセンターがあること。利便性、一定のスペースが必要であること等を考えると現在地ボランティア・市民活動センターの存続は必要不可欠と強く思う。

- 清瀬市は市民ボランティア活動をどう思っているのか、市民側から伺いたい。
- 今度センターの施設変更にあっても従来通り活動できる環境であることを期待している。
- 清瀬市にとって必要な活動をしている団体には、市職員も積極的に参加し、良い部分をご自分達の仕事に取り組んでほしい。
一例としては、手話講座に市職員も業務内で参加し、多少でも手話を使えるようになって欲しい。聞こえない人を相手に口話だけの会話はあまりにも失礼。せめて筆談くらいは。
- 常時使える拠点を確保してほしい。今までの様に無料で利用出来る駐車場や駐輪場も備えて欲しい。清瀬市としてボランティアをする市民とボランティア・市民活動の重要性を認め、今までと同じ活動が出来る様に協力いただきたい。
- 男子トイレの和式をせめてウォシュレットにしてほしい。
- 市民本位の立場に立っての両センター運営に専念されることを期待する。
- 今回の移転問題は、ボランティア・市民活動について考える良い機会になった。今後は清瀬市がプランをしっかりといただき、地域の交流・活性化や市民活動団体への支援に期待するとともに当会も意識を少しずつ変えていきたいと思う。

【コメント】

- ◆令和6年11月から令和7年3月まで、市民活動センターの移転について、登録団体を対象に説明を行ったため、市民活動センターの場所や移転に関連する回答が多かった。
- ◆市民活動センターの存在が大変重要であることと、その機能拡充を求める声が多かった。得に市民活動の活性化や地域課題の解決につながるような市民活動センターのあり方が期待されている。